

令和6年度
授業シラバス
【1年次】

志高く
未来を
創る

題字/松岡 篤志（元西高教諭）

北海道函館西高等学校

北海道函館西高等学校 現代の国語 年間指導計画(2単位)				A 24 時間	B 36 時間	C 10 時間	計 70 時間																	
				単 元 名																				
				4月	4・5月	6月	6・7月	7月	8・9月	9・10月	10月	11月	11・12月	12・1月	1月	2月	3月							
科目の目標				者に 伝えよう	対比の 構造を まとも に、自 分の具 体で	関心 をもち たイン タビュ ーの内 容をま とめ、 相手	げ、フ レーム ワーク を用い て発想 を広	文章の 論理を 捉えて 、伝え よう	めき取 った情 報を整 理し、 相手に 伝えよ う	う効果 的なブ レゼン テーシ ョンを しよ	写真や 資料を 効果的 に用い て、地 域	用いた 文章を 書こう	相手の 必要に 応じた 情報を 的確に 伝える 実	他者の 主張に 対して 結論の 出し方 を工 夫して 、課題 解決の 提案を しよう	説明し てみる よう	1月必 要な情 報を採 集・整 理して 説得力	情報の 妥当性 や信頼 性を吟 味して 、意見 文を書 こう	う自分 なりの 問いを 、他者 に伝え よう						
(1) 知識及び技能				実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。																				
(2) 思考力、表現力、判断力等				論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																				
(3) 学びに向かう力、人間性等				言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。																				
学年	第1年次	担当	小牧陽二郎・大地 博																					
使用教科書	『現代の国語』大修館																							
指導領域	A 話すこと・聞くこと																							
授業時数の計	24 時間																							
指導領域	B 書くこと																							
授業時数の計	36 時間																							
指導領域	C 読むこと																							
授業時数の計	10 時間																							
指導事項																								
知識及び技能	(1)	ア	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。	○			○																	
		イ	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と謙しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。			○					○													
		ウ	常用漢字の読みと慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	○				○								○								
		エ	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構成や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	○							○							○						
		オ	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。		○											○								
	(2)	カ	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。				○		○								○							
		ア	主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。					○				○				○								
		イ	個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。		○									○										
		ウ	推論の仕方を理解し使うこと。				○								○			○						
		エ	情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。			○						○		○										
思考力、表現力、判断力等	(3)	オ	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。					○		○				○										
		ア	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。						○		○						○							
		イ	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。						○		○													
		ウ	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。												○									
		エ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や情報を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。			○					○													
	A 話すこと・聞くこと	イ	論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。											○										
		ウ	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。															○						
		ア	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。				○																	
		イ	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。	○																				
		ウ	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。									○	○											
B 書くこと	エ	目的や場に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を捉えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特色や課題を捉え直したりすること。		○												○								
	ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。						○																
	イ	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。													○									
					教 材 名																			
					明日をひらく	野矢茂樹『考える技術』	西	要点をつかむ	山崎正和『水の東	的確に伝える	意見を示す	論理を捉える	内山節『自然と人間の関係をとおして考える』	魅力的に伝える	資料を駆使する	日本財団18歳意見調査	魅力的に伝える	他者と交流する	主張を吟味する	資料を駆使する	情報を比較する	香山リカ『空気を読む』	平野啓一郎『個人から分人へ』	他者を動かす

北海道函館西高等学校 言語文化 年間指導計画(2単位)				A 10 時間		B 60 時間		C 時間		計 70 時間									
				単 元 名															
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	10月	11月	12月	12月	12月	1月	2月	3月	
				古典 親しもう	漢文の ルールを 理解しよう	「羅生門」を 原作と読み比べて、 作品の	創作を してみよう	漢詩の 表現について 考えよう	日本人の 感じ方の 背景を 考えてみよう	古典 特有の表現に 触れ、心情を 理解しよう	外国の文化と 比較したり しながら、日本	心物語や人間 模様を読み 取ろう	近代文学作品に 込められた 思想について	故事成語として 今日まで親し まれている	日記文学に触れ、 その魅力を 味わおう	詩の表現を 比較して 味わおう	物語を読み、 情景と内面 の変化の妙を 読み取ろう		
科目の目標																			
(1) 知識及び技能				生涯にわたる社会生活に必要な言語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようになる。															
(2) 思考力、 表現力、 判断力等				論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。															
(3) 学びに向かう力 人間性等				言葉のもつ個性への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。															
学年	第1年次	担当	小牧陽二郎・佐藤和範																
使用教科書		「言語文化」大修館書店																	
指導領域		A 書くこと																	
授業時数の計		10	時間																
指導領域		B 読むこと			6	6				6			8		6	8			
		近代以降の文章					6							5			4	5	
授業時数の計		古典 40 時間 近代以降の文章 20 時間																	
指導事項																			
知識及び技能	(1)	ア	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。	○	○					○				○	○				
		イ	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。			○					○		○					○	
		ウ	我が国の言語文化に特徴的な語句の意を推し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	○	○				○			○					○		
		エ	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。				○	○		○									
		オ	本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。			○	○									○			
	(2)	ア	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。		○			○	○		○						○		
		イ	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。	○								○							
		ウ	古典の世界に親しむために、古典を味わうために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。	○	○		○			○				○				○	
		エ	時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。			○						○				○			
		オ	言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体的変化について理解を深めること。					○					○	○				○	
思考力・表現力・判断力等	A 書くこと	ア	自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。				○						○					○	
		イ	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、漢字、語句などの表現の仕方を工夫すること。					○			○								
		ウ	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。	○												○			
		エ	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。							○				○					
		オ	作品の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。								○				○				
	B 読むこと	ア	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容を解釈を深めること。			○													○
		イ	作品の背景や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。		○													○	
		ウ																	
		エ																	
		オ																	
教材名																			
				古文に親しむ「宇治拾遺物語」「今昔物語集」	漢文に親しむ「論語」	言葉の紡ぐ世界「羅生門」芥川龍之介	俳句創作	想いを表す言葉(一)短歌 恋するこころ、四季とう	想いを表す言葉(二)漢詩 自然・友情・人生	自然へのまなざし「徒然草」	自然へのまなざし「枕草子」	伝統と発展 「実体の美と状況の美」高橋秀爾	人との交わり「伊勢物語」	表現の多様性 「夢十夜」夏目漱石	故事成語(蛇足)	旅と人生「土佐日記」	日本と世界「サーカス」中原中也 Gircous	文学と人生「城の崎にて」志賀直哉	

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴		地理総合	2	学級単位	船水 紀明	
教科書		高等学校新地理総合（帝国書院）、新詳高等地図（帝国書院）				
補助教材		なし				
目標	科目	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。		地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができる。		地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めることができる。	
評価の方法	・単元末考查 ・定期考查 ・ワークシート		・単元末考查 ・定期考查 ・ワークシート		・単元末考查 ・定期考查 ・ワークシート	

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴		歴史総合	2	学級単位	黒澤 剛・藤田 省吾	
教科書		歴史総合 近代から現代へ（山川出版社）				
補助教材		なし				
目標	科目	現代的な諸課題につながる近現代の日本と世界の歴史を学びながら、歴史的なものの見方、考え方を身につける。近現代のあらましを学び、日本史だけでなく、他の地域や国と対比しながら知識を得ることで相互の関連性を見きわめられるようになる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	歴史上の事柄を、地域に分けて、時系列に理解できるようになる。		歴史上の事柄を、関連づけて説明できるようになる。		関心を持った事柄に対して、自分で調べたり、問を立てたりすることができる。	
評価の方法	・単元テスト ・定期考査 ・ワークシート ・ノート		・単元テスト ・定期考査 ・ワークシート ・ノート ・意見発表		・単元テスト ・定期考査 ・ワークシート ・ノート ・意見発表	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1章結びつく世界 第2章近代ヨーロッパ・アメリカ世界	- アジア諸地域の繁栄と日本 - ヨーロッパ人の海外進出 - 産業革命 - アメリカ独立革命 - フランス革命 19世紀のヨーロッパ - 中国の開港と日本の開国	◎	○	○	16世紀にはアジア各地で大帝帝国が繁栄し、日本とも貿易等でのつながりがあったことを理解できる。 - 大航海時代におけるヨーロッパ各国の進出を理解できる。 - 産業革命、市民革命について、背景、経過、結果、影響について理解できる。 - 日本の幕末の状況について、対外的な関連性を含めて理解できる。 - 日本の幕末の状況について、説明できる。 - 産業革命期に発生した、様々な技術的進化を説明できる。
6-8	12	第3章明治維新と日本の立憲体制 第4章帝国主義の展開とアジア	- 明治維新 - 自由民権運動 - 条約改正と立憲体制 - 帝国主義 - 日露戦争	◎	○	○	- 明治維新について、背景、経過、結果、影響について理解できる。 - 大日本帝国憲法の成立過程を理解できる。 - 日清・日露戦争に至る過程を理解できる。 - 日清、日露戦争前後の時期に、資本主義経済の基礎が確立された過程を理解する。 「帝国主義」について理解できる。
		前期期末考査					
9-11	22	第5章第1次世界大戦と大衆社会 第6章経済危機と第2次世界大戦 第7章戦後の国際秩序と日本の改革	- 第一次世界大戦 - アジアアフリカの民族運動 - 世界恐慌の発生 - ファシズム - 日中戦争 - 第2次世界大戦と太平洋戦争 - 新たな国際秩序と冷戦の始まり - 占領下の日本 - 占領政策の転換と日本の独立	○	◎	○	- 第一次世界大戦に至る経緯、ヨーロッパ列強の2大勢力の対立、社会主義革命の影響、この大戦にアメリカや日本が如何に関わり影響を及ぼしたかを考察を深める。 - 一次大戦後の「持てる国」と「持たざる国」との情勢と経過と対立に至る経過に考察する。 - 日本の満州事変から国際連盟の脱退に至る状況を理解できる。 - 日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争それぞれの性格戦時下経済と国民生活について理解できる。
		後期中間考査					
12-3	20	第8章冷戦と世界経済 第9章グローバル化する世界 第10章現代の課題	- 米ソ両大国と平和共存 - 西ヨーロッパの経済復興 55年体制の成立 - 日本の高度経済成長 - 冷戦構造のゆらぎと終結 - ソ連の崩壊と経済のグローバル化 - 国際社会の中の日本	○	○	◎	- サンフランシスコ講和会議と日本の主権回復、日米安保の経緯について理解できる。 - 保守政権誕生と、外交政治経済を踏まえて理解できる。 - 特需景気と産業構造の高度化を理解できる。 - 冷戦終結後の国際構造の変化について理解できる。
		後期期末考査					
合計	70						

1 年次	必修			
教科	科目	単位数	学級編成	担当者
数学	数学Ⅰ・数学A	3・2	おもに習熟度別学習	今井香恵・二階堂航・石橋映子
教科書	新編 数学Ⅰ（数研出版）・新編 数学A（数研出版）			
補助教材	3 TRIAL完成ノート分冊（数研出版）			
目標	科目	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （知識及び技能）基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 （思考力、判断力、表現力等）論理的に考察し表現する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 （学びに向かう力、人間性等）数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を養う。		
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	思考力
		自分を知り、学ぶとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点		各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	（数学Ⅰ）目的に応じて適切に式変形する力、表・式・グラフを相互に関連付けて考察する力、適切に分析を行い問題を解決したり批判的に考察し判断する力がついている。 （数学A）図形の性質を見出し論理的に考察する力、確率の性質に基づき事象の起こりやすさを判断する力、事象を数理的に考察する力がついている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いている。
評価の方法		・単元テスト、定期考査に加えて、小テストの項目分を加えて3段階A、B、Cで評価する。なお、小テストは各単元の中で定期的に実施する。	・単元テスト、定期考査に加えて、小テストの項目分を加えて3段階A、B、Cで評価する。なお、小テストは各単元の中で定期的に実施する。	・ワーク（3 TRIAL完成ノート）の提出状況、課題学習、長期休業中の課題や日常的な学習活動や授業中の取組および自己評価を加えて3段階A、B、Cで評価する。

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	33	数と式（Ⅰ）	・式の計算 ・実数 ・1次不等式 【課題学習】	◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ◎	◎ ◎ ◎ ◎	・多項式の加法、減法、乗法の基本的な計算ができる。 ・適切な形を選択して、展開や因数分解ができる。 ・数を拡張することに関心を持ち、意味を理解できる。その上で、根号を含む式、絶対値記号を含む基本的な式の計算ができる。 ・不等式の性質について理解し、1次不等式を解くことができる。 ・興味を持って課題に取り組み、数学的思考を深めることができる。
		集合と命題（Ⅰ）	・集合 ・命題	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・集合の表し方、意味や法則を理解できる。 ・命題に関する基本的な概念を理解できる。
		場合の数と確率（A）	・場合の数	◎ ◎ ○	○ ○ ◎	◎ ◎ ◎	・集合と要素の個数を求めることができる。 ・樹形図を書いたり、数え上げができる。 ・順列や組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。
6-8	35	場合の数と確率（A）	・確率	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・確率の意味や基本的な法則について理解を深め、それらを活用して、事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な試行、条件付き確率の意味を理解し、基本的な法則に基づいて事象を考察した上で、それらを求めることができる。
		2次関数（Ⅰ）	・2次関数とグラフ	◎	○	◎	・2次関数の値の変化や特徴について理解し、そのグラフを書くことができる。
前期期末考査							
9-11	55	2次関数（Ⅰ）	・2次関数の値の変化 ・2次方程式と2次不等式 【課題学習】	◎ ◎ ◎ ○ ○	○ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎	・2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ・2次関数の決定について理解し、問題を解くことができる。 ・2次方程式の解を求めることができる。 ・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係性について理解できる。 ・2次関数のグラフを用いて、2次不等式を解くことができる。 ・興味を持って課題に取り組み、数学的思考を深めることができる。
		図形と計量（Ⅰ）	・三角比	◎ ◎	○ ○	◎ ◎	・鋭角の三角比と相互関係について理解できる。 ・三角比を鈍角までの拡張し、鈍角の三角比を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。
後期中間考査							
12-3	52	図形と計量（Ⅰ）	・三角形への応用 【課題学習】	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	・正弦定理や余弦定理を理解し、活用できる。 ・三角比や正弦定理、余弦定理などを用いて図形の計量に応用できる。 ・興味を持って課題に取り組み、数学的思考を深めることができる。
		図形の性質（A）	・平面図形 ・空間図形	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・三角形、円および空間図形に関する基本的な性質を理解できる。 ・既習事項を組合せ、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり、説明できる。
		データの分析（Ⅰ）	・データの分析	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・分散、標準偏差、散布図および相関係数に意味や使い方を理解できる。 ・目的に応じたデータの収集、分析を行い、データの傾向を把握して、事象の特徴を説明できる。 ・興味を持って課題に取り組み、数学的思考を深めることができる。
後期期末考査							

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
理科		物理基礎	2	クラス単位		吉田 龍哉 ・ 高橋 賢司
教科書		高等学校 新物理基礎（第一学習社）				
補助教材		新課程版 ネオバルノート物理基礎（第一学習社）				
目標	科目	物理の基本的な概念や原理・法則について理解を深め、観察や実験などを通して、理科の見方・考え方を働かせ、日常の現象を科学的に探究するために必要な資質や能力を身に付ける。また、日常生活や社会との関連（繋がり）を踏まえ、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察や実験などに関する基本的な技能を身に付ける。観察、実験などを通して、科学的に探究する力を養う。物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養うことができる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 ＜習得＞			思考・判断・表現 ＜活用＞		主体的に学習に取り組む態度 ＜探究＞
	各物理現象に関する法則や原理、及び公式等を正しく理解している。また、必要に応じて公式等を導出することができる。			様々なグラフや数式から、各物理現象に繋げることが出来る。（物理現象のイメージ化ができる。）		様々な身近な現象に対して、物理学的視点を持って考察し理解を深めようとしている。（知識を身近な物理現象につなげる。関連付けようとしているかどうかという視点。）
評価の方法	・ 考查問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業での発問に対する答え			・ 考查問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業の中での発言や発表		・ 考查問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 主体的に実験やグループ活動に参加できたか

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	I 力と運動	1 物体の運動 2 力と運動の法則	◎	◎	○	・ 「速さ」と「速度」の違いをスカラー量とベクトル量で理解している。 ・ 等加速度直線運動をベースとすることで、各種運動である①自由落下、②鉛直投げ下し、③鉛直投げ上げ、④水平投射、⑤斜方投射 等の公式が導出できる。 ・ 力と加速度の関係を表したa-Fグラフや、質量と加速度の関係を表したa-mグラフから、運動方程式へと繋げることができる。 ・ 2物体運動方程式や3物体運動方程式のように物体数が複数になった際、それらの物体を1物体とみなした式も立てることができ、表現することができる。
6-8	12	II エネルギー	1 仕事と力学的エネルギー 2 熱とエネルギー	○	◎	○	・ 「仕事の原理」について、具体例を示しながら、説明することができる。 ・ 「力学的エネルギー保存の法則」を、様々な問題設定でも用いることができる。 ・ 熱力学の第一法則や熱力学の第二法則を理解した上で、吸熱か放熱か、または圧縮か膨張かを判断し、内部エネルギーの変化量について説明できる。 ・ 熱平衡（状態）についての理解を深め、熱量保存則の式を立式できる。 ・ 身近なガソリン機関等を通して、熱機関と熱効率についての理解を深める。
前期期末考査							
9-11	22	III 波動	1 波の性質 2 音波	○	◎	◎	・ 波の表し方、波の重ねあわせの原理、定常波、波の反射・回折等についての理解を深める。 ・ 身近な弦楽器を例に、弦の固有振動について作図を含めた理解を深める。 ・ 身近な管楽器を例に、気柱の固有振動について作図を含めた理解を深める。 ・ 身近な現象である「ドップラー効果」について、作図や自分の言葉を用いて説明することができる。 ・ 音速が温度依存であることを理解する。 ・ 音波は縦波であり、疎密波であり、媒質が空気であることを理解し、その上で、真空条件下では、音が伝わらないことを理解する。
後期中間考査							
12-3	20	IV 電気	1 電荷と電流 2 電流と磁場 3 エネルギーとその利用	◎	○	○	・ 電荷、電流と電気抵抗、物質の抵抗率、直流回路、電力について正しく理解している。 ・ 物質の抵抗率について、導体の長さ及び断面積を含めて説明することができる。 ・ 電力等、日常生活と関わりが深い内容について興味関心を持ち、自ら調べたり、各種発電方法についての見解を深めるとともに、環境問題についても考えることができる。
後期期末考査							

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		生物基礎	2	クラス単位	島山 薫	
教科書		新編生物基礎（東京書籍）				
補助教材		新課程 Let's Try NOTE 生物基礎（東京書籍）				
目 標	科 目	1 生命現象の持つ多様性を踏まえつつ、それらに共通する生物学の概念や原理・法則を理解する。 2 遺伝子・健康・環境など日常生活や社会に関わるテーマを通して、生命現象への興味・関心を高める。 3 生命現象の中から問題や課題を見出し、観察、実験などを通して探究する姿勢を身につける。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・生命現象について、概念や原理を理解し身につけることができたか。 ・正しい操作手順で観察・実験を行うことができたか。		・生命現象について、資料やデータから内容を読み取り、まとめることができたか。 ・自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができたか。		・生命現象を日常生活と結びつけ、関心を持って学習に臨めたか。 ・日常生活や社会的な課題を学習内容を生かし解決に向けて取り組めたか。	
評価の方法		・教科書各章末まとめ、問題集の取り組み ・定期考査（基礎的な内容）		・教科書を元に学習内容をまとめ、生徒間で評価 ・教科書の問いに対する答え、発展的気づき・考察 ・定期考査（発展的内容、理論立てた解答）		

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	1 編 生物の特徴	生物の多様性と共通性 生物とエネルギー	◎ ◎	○ ◎	◎ ○	・細胞の構造と機能について理解を深めることができたか。 ・代謝について、物質・エネルギーの出入りから説明できるか。
6-8	12	2 編 遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報とタンパク質の合成	◎ ○	◎ ○	○ ◎	・物質としてのDNA、ゲノムの概念を理解できたか。 ・細胞分裂時の染色体の変化を説明できたか。 ・遺伝情報をもとにタンパク質が合成される過程が説明できるか。
前期期末考査							
9-11	22	3 編 ヒトの体の調節	体内環境 免疫のしくみ	◎ ○	◎ ◎	◎ ◎	・自分の体のしくみや調節について、疑問や関心を持てたか。 ・自身の体の反応が、ホルモンや自律神経によりどのようにコントロールされているか説明できるか。 ・免疫の機能を理解するとともに、感染症やアレルギーなど身近な問題について考えることができるか。
後期中間考査							
12-3	20	4 編 生物の多様性と生態系	植生と遷移 生態系と生物の多様性	◎ ◎	○ ○	◎ ◎	・遷移の起こる理由と過程を考察することができたか。 ・各バイオームの環境を説明できるか。 ・各バイオームの動植物について関心を持てたか。 ・物質とエネルギーの循環について説明できたか。 ・外来生物が生態系に与える影響について、資料を元に考察できたか。
後期期末考査							

合計 70

1 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
保健体育	体育	2	2 クラス 3 展開		水谷・齋藤・久保	
教科書		大修館 現代高等保健体育				
補助教材		大修館 現代高等保健体育（デジタル版）				
目標	科目	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		・生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を思考・判断できる。 ・自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続する計画を工夫し、他者に伝えることができる。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組む態度を養うことができる。	
評価の方法	・授業への取り組み（観察） ・ルール、審判法の理解 ・練習方法の計画性 ・基本的な個人技能 ・周囲への配慮		・授業への取り組み（観察） ・自己の課題設定 ・練習方法の工夫		・授業への取り組み（観察） ・ルールの遵守 ・安全への配慮	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	体づくり運動 陸上競技 現代的なリズムのダンス	体ほぐし運動 体力を高める運動 スポーツテスト ペース走、持久走 仲間と動きを合わせリズムに乗って踊るダンス	○ ◎ ◎	○ ○ ○	◎ ◎ ◎	・体力の構成要素とそれらが健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて理解する。 ・段階的かつ継続的に練習をすすめ、自己目標を設定し、体力や記録の向上を目指す。 ・リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って体幹部（重心部）を中心に全身で自由に弾んで踊る力を身につける。
6-9	24	選択Ⅰ	バドミントン サッカー ソフトボール	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	◎ ◎ ◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身につける。
10-11	18	選択Ⅱ	バレーボール バスケットボール 卓球	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	◎ ◎ ◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身につける。
12-3	12	選択Ⅱ 体育理論	バレーボール バスケットボール 卓球 スポーツの発祥と発展	◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身につける。 ・スポーツの歴史的発展と変容を理解できるようにする。
合計	70						

1 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
保健体育	保健	1	学級単位		北辻・稲村・水谷・齋藤・久保	
教科書	大修館 現代高等保健体育					
補助教材	大修館 現代高等保健体育（デジタル版）					
目標	科目	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康、生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。		個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることにより、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。		個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、主体的に学習に取り組もうとする。	
評価の方法	・小テスト ・単元テスト		・ノート・課題の提出状況 ・授業観察 ・発表内容		・発言、発表態度 ・授業観察 ・協力体制	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	8	1 現代社会と健康	1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康	◎	◎	○	わが国の現在の健康水準や健康問題の変化について学び、今日の健康課題について理解する。健康の成立要因をふまえた上で、自分なりの健康のとらえ方について考える。
6-9	10	1 現代社会と健康	7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴	◎	◎	○	代表的な生活習慣病とその症状などについて学ぶとともに、それらが食事、運動、休養・睡眠、喫煙、飲酒といった生活習慣によって大きく影響されることを理解し、生涯にわたって適切なライフスタイルを選択・実践できるようにする。
10-11	10	1 現代社会と健康	13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	◎	◎	○	心と体には密接な関連があり、心の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることを学ぶ。
12-3	7	2 安全な社会生活	1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急処置 6 心肺蘇生法	◎	◎	○	わが国の事故の現状をふまえ、引き起こす要因について理解する。また、事故の防止には行動や規範を守る意識、安全な社会づくりが必要不可欠であり、交通事故には責任や補償問題が生じることも理解させ、自らが事故を起こさないようにする心構えをもてるようにする。
合計	35						

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
芸術		音楽 I	2	選択授業	田中 俊幸	
教科書		音楽 I Tutti+				
補助教材		基礎から学ぶ高校音楽 Music Note				
目標	科目	・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 ・音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 ・音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音楽環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や譜に気を感じながら、どのように表現するかについて理解する。		イメージを持った、創造的工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、それを表現している。		音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に表現しようと工夫して取り組もうとしている。	
評価の方法	・演奏（理解） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験		・演奏（技術） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験 ・鑑賞		・演奏（態度） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験 ・鑑賞	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・理論 ・創作 ・歌唱	・楽典 ・聴音 ・ボディーパーカッション ・発声練習 ・校歌 ・合唱 ・実技試験（校歌）	◎	○	◎	・基本的な楽譜の仕組みについて理解する。 ・簡単なリズムを用いて合奏を行う。 ・発声の基本技能を身に付け、積極的に歌唱活動を行う。 ・校歌の音楽の諸要素を知覚し、創造的に表現する。 ・合唱曲を通して、歌唱でイメージを表現できるようになる。
6-8	12	・理論 ・歌唱 ・器楽 ・鑑賞	・聴音 ・トーンチャイム ・日本の音楽 ・ギター（基礎） ・リコーダー ・鑑賞（ミュージカル） ・実技試験（リコーダー）	◎	◎	○	・楽譜についての理解を深め、ソルフェージュ能力を身につける。 ・複雑なリズムを用いて合奏を行う。 ・親しみやすい日本の歌に取り組み、協同的に取り組む。 ・アルトリコーダーの基本技能を身に付け、積極的に音楽活動を行う。 ・身近な日本音楽に触れ、積極的に表現活動を行う。 ・総合芸術において物語と音楽がどのように関わるか理解する。
前期期末考査							
9-11	22	・理論 ・歌唱 ・器楽 ・鑑賞	・視唱（コールユーブンゲン） ・世界の音楽 ・リコーダー（アンサンブル） ・ギター（弾き語り） ・鑑賞（ギター） ・実技試験（ギター）	◎	○	○	・読譜能力や、高度なソルフェージュ能力を身につける。 ・自己の内容イメージを表現するための具体的な技能を身につけ、それを生かして創造的に表現する。 ・ギターの基本技能を身に付け、積極的に音楽活動を行う。
後期中間考査							
12-3	20	・理論 ・器楽 ・創作	・理論まとめ ・ピアノ ・鑑賞（ピアノ） ・和楽器 ・発表	○	○	◎	・鍵盤の仕組みについて理解し、基本的な演奏能力を身につける。 ・和楽器の持つ独特な音色を研究し、積極的に表現活動を行う。 ・簡単な創作をグループで行い、創作や発表の基本を学ぶ。 ・演奏や鑑賞について、主体的に取り組む態度を育成する。
後期期末考査							
合計	70						

1 年次	必修				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
芸術	美術 I	2	選択授業	安田 祐子	
教科書	高校美術 I (日本文教出版)				
補助教材	なし				
目標	科目	美術の活動を通じて、美術を愛好する心情・感性を高める。また目的達成のためのプロセス、必要な段取りを考え必要な技術を身につける。生活を豊かにする美術の働きや美術文化を理解する能力を育成する。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	表現の方法・違いを理解し、自身の好む新たな表現またその過程を考え、再現するために必要な技能を習得する。基本的な画材や道具の使い方を習得する。		自身が求める創造的な表現がなされているかを考察する。必要な技術を身に付けたうえで、他の技法や素材について検討し、制作過程の正誤を再考する。		幅広い表現方法と鑑賞活動に関心を持ち、主体的に生活や社会を心豊かにする美術の働き、美術文化などに理解を深めようとしている。新たな表現方法に挑戦している。
評価の方法	・練習課題 ・作品 ・学習活動への参加状況や態度		・エスキース、アイディアスケッチ等 ・作品 ・学習活動への参加状況や態度		・エスキース、アイディアスケッチ等 ・作品 ・鑑賞レポート ・学習活動への参加状況や態度

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・導入 ・練習 ・平面構成	・オリエンテーション ・絵の具の練習シート ・色彩と構成	○	◎	◎	○小中学校での図工美術を振り返り、美術 I について制作のイメージをもち、美術の学びの意味について考える。 ○色彩について基本的な知識を整理、理解する。 ○画材、用具の特徴を確認し理解する。 ○与えられた要素を効果的に用い、多くの構成パターンを検討する。
6-8	12	・平面構成 ・デコイ彫刻	・構成 ・着彩 ・鑑賞 ・立体と空間の把握	◎	○	◎	○色同士の関係を理解し、完成作品の印象をイメージする。 ○画材の特徴を生かし、美しく着色できる技能を身につける。 ○用具の正しい使い方を身につける。 ○立体作品の素材について学ぶ。
		(前期期末考査)					
9-11	22	・デコイ彫刻 ・人物クロッキー ・砂絵	・立体と空間の把握 ・鑑賞 (名画から学ぶ) ・模写	○	◎	◎	○空間を正確に理解し、かたちに表す。 ○平面絵画作品の鑑賞から色彩やかたちが与える効果について学ぶ。 ○原画を正確に模写する。 ○用具を正しく用い、色の分かれ目で切り取れるようにする。
		(後期中間考査)					
12-3	20	・砂絵	・色砂による着彩	○	○	◎	○10色の色砂を用いた混色について理解し、対象の絵画作品を正確に表現できるようにする。 ○原画をよく観察することで、細部まで追い完成度を高める。
		(後期期末考査)					

合計 70

		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
	書道Ⅰ	2	選択授業		天満谷 貴之	
教科書	教育出版 書道Ⅰ					
補助教材	なし					
目標	科目	(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け表している。		書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。		書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
評価の方法	・作品 ・自己評価シート ・ワークシート		・作品 ・自己評価シート ・ワークシート		・作品 ・グループワーク ・自己評価シート ・ワークシート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション 文房四宝 漢字の書 1 篆刻	書写と書道について 墨・紙・硯・筆を調べる 文字の変遷と楷書 姓名印を刻そう	◎ ◎	◎ ◎	○ ○	<知識・技能> ○篆書の用筆や運筆を理解し、調整しながら主体的に学ぶことができる。 <思考・判断・表現> ○文房四宝について、正しく理解し探究学習の基本を理解することができる。 <主体的に学習に取り組む態度> ○書写と書道の繋がりを正しく理解し、書の伝統文化を意識した学び方ができる。また、日常生活との関連性について探究し、グループワーク、ICT等を効果的に活用し、知識を豊かにすることができる。
6-8	12	漢字の書 2	楷書と行書を比較 日本の書を学ぶ	◎ ◎	◎ ◎	○ ○	<知識・技能> ○楷書における(向勢・背勢)について正しく理解し、特徴を活かしながら臨書することができる。 <思考・判断・表現> ○ワークシートを活用しながら、社会的な内容と結びつけ楷書と行書のよさや美しさ価値を文章で表現し、自分の考えを順序立てて、具体例を挙げながら自己や他者の作品について伝えることができる。
前期期末考査							
9-11	22	仮名の書	書の伝統文化を学ぶ (仮名の歴史について) 仮名の線を引く	○ ◎	◎ ◎	◎ ◎	<知識・技能> ○日本の文化を様々な角度から探究し、日本の文字文化を支える「仮名」の歴史について、価値を知り理解することができる。 ○仮名の線を習得しつつ、平仮名・変体仮名の学びを通して、散らし書きの美しさを感じ臨書することができる。
後期中間考査							
12-3	20	漢字仮名交じりの書	言葉の持つメッセージ性とは何か 漢字と仮名の調和とは 詩人の言葉を書いてみる 生活の中に生きる書	◎ ◎	○ ◎	◎ ○	<知識・技能> ○習得した用筆法を活用し、効果的な表現活動ができる。 ○時の背景を想像し、自ら習得した技能を効果的に工夫しながら表現することができる。 <思考・判断・表現> ○言葉の持つ意味を味わい、それに調和するための要素を主体的に考え表現することができる。 <主体的に学習に取り組む態度> ○書や文字が社会の中でどのように生きているのかを考えたり、その役割を見出すなど、書道がもたらす効用を考えることができる。
後期期末考査							
合計	70						

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語		英語コミュニケーションⅠ	3	2クラス3展開	佐藤 真弓・伊藤 祐子・菅野 萌恋	
教科書		MY WAY English CommunicationⅠ				
補助教材		マイウェイ総合英語 必修英単語LEAP BASIC 必修英単語LEAP abceed				
目標	科目	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	[知識] 文章を読み取るために必要となる文法に関する事項や表現の意味や働きを理解している。 [技能] [L]本文を読み取る技能を身に付けている。 [R]文法に留意して、内容を読み取る技能を身に付けている。 [Sや]論理性に注意して円滑に意見を交換する技能を身に付けている。 [S発]グループで話し合った内容を、論理性に注意して報告する技能を身に付けている。 [W]論理性に注意して既習文法などを用いて簡潔に書いて伝える技能を身に付けている。		[L]本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えている。 [R]本文を読み取り、概要や要点を把握している。 [Sや]基本的な語句や文を用いて、考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えている。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して簡潔に書いて伝えている。		[L]本文の概要や要点、必要な情報を、主体的、自律的に聞き取って捉えようとしている。 [R]本文を主体的、自律的に読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 [Sや]基本的な語句や文を用いて、主体的、自律的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えようとしていたりしている。 [S発]グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、主体的、自律的に情報や考えを発表して伝えようとしている。 [W]本文を読んで得られた情報などを参考にしながら、主体的、自律的に簡潔に書いて伝えようとしている。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・パフォーマンステスト		・パフォーマンステスト ・小テスト ・定期考査		・ポートフォリオ ・パフォーマンステスト	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	L1 Proverbs Around the World L2 Iwago Mitsuaki -An Animal Photographer	現在形・過去形/進行形/SVO(O=that節) 助動詞 / 受け身 / 助動詞のついた受け身	○	◎	◎	[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し、本文を読み取り概要や要点を把握することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、与えられたフォーマットを参考に、考えを話して伝えたり、相づちを打ちながら相手とのやり取りをすることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して簡単な理由を添えて、簡潔に書いて伝えることができる。
6-8	18	L3 Sending Canned Mackerel to Space L4 Messages from Winnie-the-Pooh	動名詞 / to不定詞の名詞的用法・副詞的用法 / to不定詞の形容詞的用法 現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了形	○	◎	◎	[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し、本文を読み取り、概要や要点を把握し、推論することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、考えを話して伝えたり、相づちを打ちながら相手とのやり取りをすることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて理由や根拠とともに書いて伝えることができる。
前期期末考査							
9-11	33	L5 Endangered Languages L6 A Wheelchair Traveler L7 The Fugees	関係代名詞(主格) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what / It is ... to不定詞 現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法 / 分詞構文 / It is ... That 関係副詞where / 関係副詞when / 関係副詞why / 比較級・最上級	○	◎	◎	[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し、本文を読み取り、概要や要点を把握し、推論することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、話題を発展させて、考えを話して伝えたり、相づちを打ちながら相手とのやり取りをすることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して話題を広げて理由や根拠とともに書いて伝えることができる。
後期中間考査							
12-3	30	L8 Avatar Robots L9 Kadono Eiko and the Power of Imagination L10 SDGs - Sustainable Development Goals	条件を表すif節 / 仮定法過去 / I wish ~ / as if ~ SV0102(O2=how to) / SVO+to不定詞 / SVOC(C=動詞の原形) / SVOC(C=現在分詞)	○	◎	◎	[L]ワークシート等を活用し本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。 [R]文法に留意し本文を読み取り、概要や要点を把握し、推論することができる。 [Sや]基本的な語句や文法を用いて、考えを話して伝えたり、相手をほめる表現のやり取りをすることができる。 [S発]グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えることができる。 [W]読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して自分の意見を理由を複数添えて書いて伝えることができる。
後期期末考査							
合計	105						

1 年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語		論理・表現 I	2	2 クラス 3 展開	佐藤 真弓・伊藤 祐子・菅野 萌恋	
教科書		MY WAY Logic and Expression I				
補助教材		MY WAY 総合英語				
目標	科目	・ 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 1 伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 2 論理の構成や展開を工夫して伝えることができるようにする。 3 論理の構成や展開を工夫して伝える文章を書くことができるようにする。 ・ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、 1 ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝えることができるようにする。 2 スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。 3 聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて、理解を深めている。 ・ 英語で話したり、書いたりする際の論理の構成や展開や、情報や考えなどを効果的に伝える表現について理解を深めている。 ・ 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識と、英語で話したり、書いたりする際の論理の構成や展開や、情報や考えなどを効果的に伝える表現についての知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用することができる。		スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、まとまりのある文章を書くことなどを通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的課題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
評価の方法	・ 小テスト ・ 定期考査 ・ パフォーマンステスト		・ パフォーマンステスト ・ 小テスト ・ 定期考査		・ ポートフォリオ ・ パフォーマンステスト ・ 定期考査 ・ 振り返りシート ・ 授業での活動の取組 ・ 提出課題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	Lesson 1 Let's Talk about Ourselves Lesson 2 School Life	《活動》 ・ 初対面の挨拶、やり取り ・ 自己紹介スピーチ ・ 自分の学校について書く 《言語材料》 ・ 時制（現在形、過去形、現在進行形、過去進行形）	○	○	◎	・ 英語の文法の特徴やきまりに関する事項を理解し、理解したことをスライド等にまとめることができる。 ・ 初対面や自己紹介に必要な語彙や表現、音声等を理解している。 ・ 自分のことを話して述べたり、相手のことについて質問できる技能を身につけている。 ・ 自分のことを理解してもらえるように、自分についての情報を話して伝えることができる。 ・ 自分のことを理解してもらえるように、自分の学校についての事実を書いて伝えることができる。
6-8	12	Lesson 3 The Arts Lesson 4 Food and Culture	《活動》 ・ 週末の予定についてやり取り ・ レストランでのやり取り ・ 自分の好きなことについて発表 ・ 日本文化の紹介レポート 《言語材料》 ・ 未来の表現 ・ 現在完了	○	◎	○	・ 英語の文法の特徴やきまりに関する事項を理解し、理解したことをスライド等にまとめることができる。 ・ 予定や注文など、日常生活に必要な語彙や表現、音声等を理解している。 ・ 自分や身の回りのことについての情報を話したり書いたりして伝える技能を身につけている。 ・ 自分や身の回りのことを理解してもらえるように、情報や考えを話して伝え合うことができる。 ・ 自分や身の回りのことを理解してもらえるように、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを書いて伝え合うことができる。
前期期末考査							
9-11	22	Lesson 5 Welcome to Our Town Lesson 6 Traveling Abroad Lesson 7 Sports	《活動》 ・ 道案内のやり取り ・ 買い物でのやり取り ・ 身の回りの事実について発表 ・ 興味のあることについて調べて書く 《言語材料》 ・ 助動詞 ・ 受動態 ・ 不定詞 ・ 動名詞 ・ 分詞	○	○	◎	・ 英語の文法の特徴やきまりに関する事項を理解し、理解したことをスライド等にまとめることができる。 ・ 道案内や買い物など、日常生活に必要な語彙や表現、音声等を理解している。 ・ 日常的話題についての情報を話したり書いたりして伝える技能を身につけている。 ・ 日常的話題について、情報や考えを話して伝え合うことができる。 ・ 日常的話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを書いて伝えることができる。
12-3	20	Lesson 8 Everyday Technology Lesson 9 Take Care Lesson 10 SDGs-Take Action!	《活動》 ・ 賛成、反対などの意見のやり取り ・ 身近な社会問題について調べて発表 ・ 理由や具体例を加えて意見を書く 《言語材料》 ・ 比較 ・ 関係詞 ・ 仮定法	○	◎	○	・ 英語の文法の特徴やきまりに関する事項を理解し、理解したことをスライド等にまとめることができる。 ・ 社会的な話題について、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝える技能を身につけている。 ・ 自分の意見を相手により良く理解してもらえるように、社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、理由や具体例を用いて、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝えることができる。
後期期末考査							
合計	70						

1 年次	必修				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
情報	情報 I	2	クラス単位	山下 賢一 ・ 本間 至	
教科書	実教出版 最新情報 I				
補助教材	実教出版 新課程版 最新情報 I 学習ノート ・ ライフイズテックレッスン「情報 I」				
目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。				
評価の観点	知識・技能 <習得> 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	思考・判断・表現 <活用> 事象を情報とその結び付きの観点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	主体的に学習に取り組む態度 <探究> 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。		
評価の方法	定期考査・小テスト・理解度チェック	レポート・プレゼンテーション・提出作品・課題	自己評価・振り返り・学習ノート・(課題)		

年間計画		◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	12	第5章問題解決とその方法 第6章アルゴリズムとプログラミング	○問題解決学習全般の流れを理解する。 ○データの活用方法を知る。 ○モデル化とシミュレーションについて理解する。 ○アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ○プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 ○変数を使用したプログラムを作成する。 ○関数を使用したプログラムを作成する。 ○多くのデータから目的のデータを抽出するプログラムを作成する。	○ ○	◎ ○	○ ◎
6-8	15	第1章情報社会と私達 1 情報社会 2 情報社会の法規と倫理 3 情報技術が築く新しい社会	○情報社会の現状について理解する。 ○情報の特性について理解する。 ○情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 ○知的財産権について理解する。 ○他人の著作物を適切に利用したり公開したりする方法を理解する。 ○個人情報とプライバシーについて理解しそれらを保護する方法を身に付ける。 ○社会の中で活用されている情報技術について理解する。 ○様々な情報技術について理解し課題解決の方法を考える。	○	○	○
(前期期末考査)						
9-11	22	第2章メディアと情報デザイン 1 メディアとコミュニケーション 2 情報デザイン 3 情報デザインの実践	○メディアには種類があることを理解し、その発達について知る。 ○メディアの特性を理解し目的に応じたものを選択できる。 ○コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。 ○インターネットを活用したコミュニケーションの特徴を理解する。 ○社会で利用されている情報デザインを理解する。 ○情報を正確に分かりやすく伝える方法を理解する。 ○報告書やレポート論文を作成するための手順を理解する。 ○プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。 ○Webページ作成方法を理解する。	○	○	◎
(後期中間考査)						
12-3	21	第3章システムとデジタル化 1 情報システムの構成 2 情報のデジタル化 第4章ネットワークとセキュリティ 1 情報通信ネットワーク 2 情報セキュリティ	○コンピュータの構成と動作の仕組みを理解する。 ○ソフトウェアの種類とインターフェースを理解する。 ○アナログとデジタルの違いについて理解する。 ○2進数と情報量について理解する。 ○コンピュータ演算の仕組みを理解する。 ○情報のデータ量を圧縮する方法を理解する。 ○情報通信ネットワークの構成を理解する。 ○ネットワークを効率的に利用するための取り決めを理解する。 ○Webページとメールの仕組みについて理解する。 ○脅威に対する様々な安全対策を理解する。 ○情報セキュリティを確保する方法と技術を理解する。	○	○	◎
(後期期末考査)						